

英語映画の台詞のアイロニーの日本語字幕翻訳について

牛江ゆき子

(文京学院大学)

Abstract

This paper explores how verbal ironies in English movies are translated in Japanese subtitles. Verbal ironies can be separated into two basic groups based on their interpersonal function: aggressive or friendly. Examination of Japanese subtitles of eighteen American movies showed both types of irony were most often translated as ironies preserving both their interpersonal function and the speaker's true feelings. Aggressive ironies, however, were also often translated as non-ironies either explicating or implicating the speaker's true feelings. On the other hand, friendly ironies were often translated as non-ironies neither explicating nor implicating the speaker's true feelings, only retaining their interpersonal function. Both types of irony were sometimes omitted when their implicated meaning or intended effect was communicated otherwise in a linguistic and/or non-linguistic context. The results suggest that retention of the interpersonal function takes priority over retention of the implicated meaning or the use of irony in Japanese subtitle translation.

1. はじめに

英語の会話においては、ひどい仕打ちをした聞き手に“*You are a fine friend indeed.*”と言って非難の意を伝えたり、不満を伝えるのに“*Thank you.*”と言ったりするアイロニー (verbal irony) (以下、「アイロニー」はすべて verbal irony を指す) がしばしば用いられる。アイロニーにおいては、特徴的に、表現の表層的な意味と話し手の意図との間にずれ (incongruity) がある。そのため、文字通りの意味を理解するだけでなく、その裏に込められる話し手の意図を推論する必要がある。それには社会的文化的背景の理解が必要である (Barbe 1995、他)。アイロニーの理解や用いられ方は文化やグループ、個人によっても異なるため、一般的にアイロニーの翻訳は難しいと指摘されている (Barbe 1995)。また、アイロニーには、聞き手等を傷つける、場を和らげる等、多様な対人的・社会的機能があり (Kotthoff 2003、他)、アイロニーの理解には、このような対人的・社会的機能の理解も含まれる (Winner 1988)。

本稿では、英語映画の台詞において見られるアイロニーが日本語字幕においてどのように翻訳されているか、また、翻訳方法にどのような要因が影響しているかを考察する。字幕翻訳においては、空間的制約 (字数制限)、時間的制約 (表示できる時間の制限)、メディアの制約 (文字情報に限られること)、読み返しができないこと等の制約がある。このような制約がある字幕翻訳において、アイロニーの翻訳は一般的な翻訳よりも一層困難であることが推測される。また、一般に起点言語

USHIE Yukiko, “Exploring How Verbal Ironies in English Movies Are Translated in Japanese Subtitles,” *Invitation to Interpreting and Translation Studies*, No. 18, 2017. pages 1-32. ©by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

と目標言語との間に接触や共通点が多い場合にはアイロニーは翻訳されやすく、少ない場合は翻訳が難しいとされる (Barbe 1995: 147)。英米等で制作された英語映画のアイロニーの日本語字幕翻訳においては、文化の違いからアイロニーの受けとめ方が異なり、英語のアイロニーが直訳された場合に、日本の視聴者にはアイロニーと理解されない可能性や、その機能が話し手の意図とは異なって受け止められる可能性がある。よって、アイロニーの字幕翻訳においては、受け手の処理労力の軽減や、誤解の回避のための工夫がなされる必要があると思われる。

2. 先行研究

2.1 アイロニーの先行研究

2.1.1. アイロニーの定義

アイロニーは、伝統的には、文字通りの意味の「正反対 (opposite)」を表す修辭的な手法と定義されるが、近年の言語学の立場からの研究においては、その定義は狭すぎるとされ、アイロニーの定義および何をアイロニーと捉えるかについてさまざまな考え方が提唱されている (Grice 1975, Sperber & Wilson 1981, Clark & Gerrig, 2007/1984, Wilson & Sperber 1992, Barbe 1995, Kumon-Nakamura, Glucksberg & Brown 2007/1995, 河上 1998, 2012, Attardo 2000, Utsumi 2000, Wilson 2014, 他)。Wilson & Sperber (1992) は、伝統的な定義では捉えられないアイロニーの例として *ironical understatement*, *ironical quotation*, *ironical interjection* を挙げている。*ironical understatement* の例は、土砂降りの雨の際に “It seems to be raining.” (Sperber & Wilson 1981:303) と言ったり、明らかに怒りを爆発させている人物について、“You can tell he’s upset.” と言ったりする場合である (Wilson & Sperber 1992)。*Ironical quotation* の例は、雨が降るロンドンの交通渋滞の中で Boswell の言葉を引用して “When a man is tired of London, he is tired of life.” という場合である。Boswell にこの言葉を発せさせたロンドンの情景と現実の差が浮かび上がる (Wilson & Sperber 1992)。*Ironical interjection* の例は、「五月のトスカナほど美しいものはない」と友人に誘われて訪れたトスカナでひどい天候に見舞われて “Ah, Tuscany in May!” という場合である。この発話は命題となっておらず、何が正反対 (opposite) と言えるか不明である (Wilson & Sperber 1992)。Kumon-Nakamura et al. (2007/1995) は、何らかの期待が裏切られる状況において、期待が外れたことをほのめかすのがアイロニーであると主張し、失礼な態度の店員に、“Thanks, you’ve been very polite.” と、あるべき姿を述べて気づかせる場合や、年齢不相応の振る舞いをする人に “How old did you say you are?” と尋ねて、間接的に期待されることに気付かせる場合や、知識をひけらかす人に対して、“You sure know a lot.” と、知識があることは認めつつ、態度には問題があることをほのめかす場合を挙げている (Colston 2007/2000: 99-100)。他に、気持ちが伴わずに (不誠実に) 行われる祝福、感謝、依頼、謝罪や挨拶等の発話行為もアイロニーとなる (Attardo 2000)。祝福する気持ちはないにもかかわらず “Congratulations!” という場合などである。

本稿では、これらの先行研究を踏まえ、伝統的な定義よりも広くアイロニーを捉え、上記の先行研究で挙げられている様々な種類のアイロニーをアイロニーとして扱う。すべてを含める定義は困難であるが、話し手の本心が、言語表現の文字通りの意味や、言語表現から一般的に想定されることと一致しない (ずれがある) ことや、発話行為の表現が本来持つ意図と一致しない (ずれがある) ことが話し手によって認識され、かつ、その不一致・ずれが聞き手あるいは傍聴者 (話し手自身である場合も含む) に対して伝わるように (あるいは、伝わってもよいと考えて) 発せられる言語表現をアイロニーとして扱う。

2.1.2. アイロニーの特徴・種類

アイロニーの特徴および種類に関して、本稿の考察に関係する事項として、先行研究において以下のような知見が提示されている。

1) アイロニーが表す評価・態度

アイロニーには、特徴的に評価・判断 (evaluation and/or judgement) や態度 (attitude) が含まれるとされる (Grice 1975, Hutcheon 1994, 他)。そして、その評価・判断や態度は、否定的、批判的なものであるという捉え方が多い (Wilson & Sperber 1992, Barbe 1995, Utsumi 2000, 他)。しかし、対象を責めたり批判したりしているように見せかけながら褒めるアイロニーがあることも指摘されている (Dews, Kaplan & Winner 2007/1995, 河上 1998, 2012, Attardo 2000)。前者は、blame-by-praise 型 (ほめてけなす型) あるいは ironic criticism、後者は、praise-by-blame 型 (けなしてほめる型) あるいは ironic compliment と呼ばれることがある (河上 2012, Dews et al. 2007/1995)。Dews et al. (2007/1995) は、もっとも普通に用いられるアイロニーは前者であると述べるとともに、その理由として、後者の場合は、ほめているとわかっていても、表現に引きずられて否定的に評価されていると聞き手に感じられてしまう可能性があることを挙げている。前者は、アイロニーではなく話し手の本心を表していると聞き手に誤解されても、対人関係が傷つく可能性は低い。しかし、後者は、話し手の本心を表していると聞き手に誤解されると、対人関係が傷つく可能性が高い。

話し手の否定的な評価・判断を含むアイロニーの否定的な評価・判断は、否定の度合いが強いものも弱いものもあり、また、種類もさまざまで、本気の場合も冗談の場合もある (Utsumi 2000)。

2) アイロニーの対象 (「ターゲット」)

アイロニーには、評価・判断の対象 (target, object, victim) (以下、「ターゲット」となるものがある。ターゲットとなるものとしては、聞き手あるいは第三者、話し手自身 (例えば、皿が乗ったお盆を落とした話し手が “Great move!” という場合)、状況・運命 (例えば、トラブルに連続して見舞われている話し手が “Isn't life easy?” という場合) がある (Winner 1988)。

3) アイロニーの社会的・対人的機能

アイロニーの翻訳においては、アイロニーの社会的・対人関係 (以下、「対人関係機能」) の保持も課題となる。アイロニーの対人関係機能については、さまざまな考えがある。ユーモアがあり参加者を楽しませたり、非難を和らげたりする働きがあるとするものもあれば (Nash 1985, Brown & Levinson 1987, Winner 1988, Pelsmaekers & Van Besien 2002, Vandaele 2002, Gibbs, Bryant & Colston 2014, 他)、非難を強める働きをするものもある (Colston 2007/1997) など、多様でしばしば正反対の機能や効果が主張されている (Hutcheon 1994, Dews et al. 2007/1995, Gibbs 2007/2000, 他)。Kotthoff (2003) は、ドイツ語でのディナーの席での友人同士のインフォーマルな会話とオーストリアのテレビの討論番組のフォーマルな会話に見られるアイロニーとアイロニーへの応答を研究した。その結果、アイロニーは使われるコンテキストによって異なる働きをしており、友好的 (supportive / friendly / humorous / bonding) な側面が強いものと、攻撃的 (competitive / aggressive / critical / biting) な側面が強いものがあると主張する。また、アイロニーへの応答もコンテキストにより異なる傾向があると主張する (Kotthoff 2003)。

4) 「アイロニーの標識」(ironic markers / cues)

アイロニーは、アイロニーとして解釈されるように(文字通りの意味に解釈されないように)、アイロニーであることを示す標識の役割を果たすもの(特別の言語・非言語的特徴)を伴うことが多い(Hutcheon 1994, Barbe 1995, Utsumi 2000, Pelsmaekers & Van Besien 2002、他)。言語的な特徴には、強意表現、控えめな表現、間投詞、過度にあらたまった表現等の使用や表現の繰り返しなどが含まれ、非言語的な特徴には、特有の声の調子や顔の表情、ジェスチャーが含まれる(Utsumi 2000, Pelsmaekers & Van Besien 2002、他)。Anolli, Ciceri & Giaele Infantino (2007/2002) は、実験を行い、アイロニーとアイロニー以外の発話とでは音声面で異なる特徴が見られるのに加えて、アイロニーが用いられるコンテキストが対立的であるか協力的であるかによって、アイロニーの音声的特徴が異なると論じている。映画の視聴者にとって、映画の映像や音声から得られる情報もアイロニーを理解・解釈するうえで参考になる(Pelsmaekers & Van Besien 2002)。

5) アイロニーの理解・解釈

アイロニーは文化や集団、個人によって異なるため、アイロニーの理解には、文化の知識、状況に関する知識、個人に関する知識等の背景知識の共有が必要である(Barbe 1995)。これらの背景知識が共有されない場合、理解は難しくなる。Linder (2010) によると、Lonsdale (1996) の調査では、スペイン語のジャーナリスティックな文章に見られるアイロニーを、スペイン語を母語とする大学生の集団の半数以上がアイロニーと認識したが、英語母語話者の被験者は誰もアイロニーと認識しなかった。アイロニーの認識は、母語話者であっても必ずしも全員ができるわけではなく、非母語話者であれば、さらに難しいことがわかる。また、幼い子どもにとってもアイロニーの理解は容易ではなく、アイロニーの話し手の意図が理解できないことや、話し手の意図が理解できても、アイロニーの社会的機能までは理解できないことがあるとされる(Winner 1988)。

2.1.3 英語と日本語におけるアイロニーの使用の実態

実際の会話におけるアイロニーの使用の実態を調査した研究は多くはなく、残念ながら、英語と日本語におけるアイロニーの使用や特徴を比較している研究はないようである。英語におけるアイロニーの使用に関しては、アメリカの大学生の会話で用いられるアイロニーとそれに対する応答を詳細に調査したGibbs (2007) がある。Gibbs が分析した大学生の62の会話においては、会話の全体のターン(turn)のうち約8%という高い頻度でアイロニーが用いられていた。これは、Tannen (1984) の20代、30代の大人の友人同士の会話の研究におけるアイロニーの比率とほぼ同じであるという。また、アイロニーの主な形式として次の5つがあることが示唆されたと述べ、それぞれの割合も示している。(a) jocularit y (話し手がユーモアを込めて互いにかからかい合う)(50%)、(b) sarcasm (話し手が肯定的に話して、より否定的な意図を伝える)(28%)、(c) rhetorical question (話し手がユーモアあるいは批判を意図して質問する)(12%)、(d) hyperbole (話し手が状況を実際より誇張することにより、文字通りではない意味を表す)(8%)、(e) understatement (話し手が実際よりはるかに過小に伝えることによりアイロニーのメッセージを伝える)(2%)。いずれの形式のアイロニーも、その多くが、聞き手やその他の人の少なくとも一部から、ユーモアが込められていると判断されたという結果も示している。アイロニーの使用頻度の高さから、Gibbs は、アイロニーは決して特殊な状況で用いられる修辭的技法ではなく、日常会話においてごく当たり前、さまざまな意味を込めて用いられるものであると述べている。

日本語に関しては、アイロニーの使用実態の調査研究は見つかっていないが、河上(1998)は日本語のアイロニーを例に挙げて、アイロニーの構造や種類の説明を行っている。よって、以下の

主張は、日本語に当てはまるものとして提示されていると考えてよいと思われる。河上は、肯定的なことを述べてその反対の否定的な評価をするアイロニー(河上によると「偽善型アイロニー」)は「ごくありふれたアイロニーの典型である」(河上 1998: 10)と述べている。一方、否定的なことを述べて肯定的な評価をするアイロニー(「偽悪型アイロニー」)(たとえば、「悪友に『また悪い奴がやって来た』と嬉しそうに言う」場合)については、「社会的には限定された、閉じられた人間関係の中で発話されることが多く」、「注意して探さなければなかなか気がつかない」(河上 1998: 10-11)と述べている。また、河上(1998)は、うるさく騒ぐ子供について、その親に「お宅の坊ちゃんは元気がよろしいですね」と言うような場合を「隠されたアイロニー」と呼んでいる。この場合、「元気がよい」の反対の「元気がない」が意図されるのではない。河上によると、「元気がよい」という表現には、元気がよくてよい、という良い意味と、元気がよすぎて他人迷惑な、という悪い意味があり、隠されたアイロニーでは、前者に見せかけて、後者が意図される。河上は、「偽善型のような典型的なタイプよりも、むしろ一見何気ない表現でありながら、その裏にアイロニーが隠されている場合がよくある」、また、「実際の言語生活は、この種のアイロニーに満ち溢れていると言ってよい」と述べている(河上 1998: 11-12)。

なお、日本語では、アイロニーは「皮肉」と訳されることが多いが、皮肉はアイロニーの一種であり、ターゲットに対する否定的な態度に限定され(松井 2013)、一般に、特定の個人を強く非難する意図で発せられるものを指す。皮肉より広い概念であるアイロニーには、ユーモアが込められた友好的なアイロニーや、自分自身や運命をターゲットとするアイロニーが含まれるが、これらのアイロニーは日本語母語話者にはあまりなじみがないように思われる¹。

2.2 字幕翻訳に関する先行研究

空間的制約(字数制限)、時間的制約(表示できる時間の制限)、読み返しができないこと等の制約がある字幕翻訳においては、個々の語彙要素の意味よりも発話全体の伝達上の意図を伝えることや、原文と同等の発語媒介効力(perlocutionary force)(受け手に与える効果)を持つことが求められると言われている(Gottlieb 1998 in Perez Gonzalez 2009, Blum-Kulka 1981 in Baker & Saldanha (Eds.) 2009)。また、メッセージが効果的に伝わるよう簡潔化が求められ、原文を凝縮(condense)、省略(delete)、改変(adapt)する方略がしばしば用いられることが知られている(Perez Gonzalez 2009)。たとえば、重要度の高い情報を担う要素(映画の話の展開に関わる要素や登場人物の人物像や心理状態を表す要素等)は保持されるが、台詞の中の重複する要素や映像・韻律上の特徴から読み取れる情報、重要度の低い情報は省略される傾向があることが指摘されている(Diaz Cintas & Remael 2007, Georgakopoulou 2009, 牛江・西尾 2002, 2011, 他)。さらに、字幕が表示される短時間の間に解釈し易いように、また、異なる社会的文化的背景を持つ読み手が理解しやすいように、明示化(explication)、一般化(generalization)、置き換え(substitution)などの方略も用いられる(Diaz Cintas & Remael 2007, 牛江・西尾 2003, 2008)。

一方で、近年、映画の視聴者の多くが英語を理解でき、英語映画の原語の台詞をかなり理解できるという社会的状況から、原語が聞こえるのと同時に字幕が目に入る字幕翻訳において、字幕翻訳者は、原文に忠実に翻訳しようとしがちであるという指摘もある(Gottlieb 2009)。特に、DVDのように字幕と吹替の言語を自由に選べる場合、字幕を使って原語を学ぼうとする視聴者は、できる限り原文に忠実で、省略が少ない翻訳を好むとされる(Diaz Cintas & Remael 2007)。

2.3 アイロニーの翻訳、字幕翻訳に関する先行研究

Barbe (1995: 167) は、アイロニーの翻訳において、アイロニーは必ずアイロニーとして解釈されるように翻訳されなくてはならず、そうでなければ、メッセージが誤って伝えられることになることと述べている。一方で、アイロニーの翻訳は、相互の文化についての知識が言語使用者に共有され、アイロニーの表現方法や使用目的が似ている言語間では容易であるが、そうでない場合には非常に困難であると言われている (Barbe 1995, 他)。そして、実際に翻訳においてアイロニーの解釈はしばしば失われると指摘される (Hatim & Mason 1990, Linder 2010)。その理由の一つは読者 (翻訳者を含む) が原文に込められるアイロニーの意図に気づかない場合があることであり、もう一つの理由は翻訳者がアイロニーの意図に気づいてもそれを翻訳においてうまく表現できないことがあるためであるとされる (Linder 2010)。翻訳方法に関しては、受け手のアイロニーの理解と解釈を助けるために、翻訳において、説明やアイロニーの標識の付加、語彙の反復、対句法 (parallelism) などの手法が用いられる指摘されている (Hatim & Mason 1990, Barbe 1995, Haapakoski 2010)。

アイロニーの字幕翻訳の研究においては、字幕では原文のアイロニーの特有の言語的特徴が影響を受けることや、社会文化的な知識が共有されないことなどにより、アイロニーの解釈がしばしば失われることが指摘されている (Hatim & Mason 1997, Ajtony 2015)。一方、イギリスの歴史コメディードラマに見られるユーモアのあるアイロニーのオランダ語字幕翻訳について量的、質的研究を行った Pelsmaekers & Van Besien (2002) は、原文のユーモアのアイロニーのほとんど (211 例中 209 例) が字幕においてもアイロニーとしての解釈の可能性を保持しており、約三分の二においてアイロニーの特有の言語的特徴に何らかの影響が見られ、その結果、概して、字幕ではターゲットに対する非難がより明示的になっていると述べている。イタリアのミステリードラマの英語字幕翻訳を研究した De Meo (2015) は、原文のアイロニーに見られる特有の言語的特徴が、字幕においてもほぼ保持されており、映像の情報も合わせてアイロニーとしての解釈の可能性が保持されているとしている。

3. 本稿の研究課題とデータ

異なる文化間でのアイロニーの翻訳はそもそも容易ではなく、種々の制約がある字幕においてはさらに特有の困難を伴うという先行研究の主張を踏まえ、本稿においては、以下の課題について研究する。

課題 1: 英語映画のアイロニーは日本語字幕においてどのように翻訳されるか。翻訳において何が保持されるか。

課題 2: 翻訳方法の選択にはどのような要因が関係するか。

本稿では、1990 年代以降に制作された主に米英を舞台とするアメリカ映画で、様々な場面 (家庭、学校、職場等) や人間関係が描かれている、日常的な会話を主体とする実写映画 18 本の DVD を分析資料とする。これらの映画の台詞から、2.1 節で述べた本稿でのアイロニーの定義によりアイロニーを抽出し、その字幕翻訳を分析する。抽出された「原文のアイロニー」は 78 例であった。アイロニーにおいては、“Thanks. Thank you.” (*You Can Count on Me*) のように、ほぼ同じ内容の発話が繰り返されることや、“By all means, move at a glacial pace. You know how that thrills me.” (*The Devil Wears Prada*) のように、密接に関連する発話が連続することがしばしばある。このように同じ話者によるほぼ同一の内容のあるいは密接に関連する複数のアイロニーの発話が一つの turn 内で連続する場合は、その一連の発話をまとめて 1 つのアイロニーと見なす。なお、アイロニーかどうかの判断は筆者による。言語文脈や状況、話し手の口調・表情、ストーリーの展開等を基に判断

したが、抜け落ちたものや、逆に筆者が読み込み過ぎた場合もあるかもしれない。本稿は、基本的に質的な研究である。量的なデータも示すが、上記の理由により、厳密なものとは言えない。

以下の議論において、アイロニーを台詞として言う登場人物を「話し手」、そのアイロニーの台詞が向けられる登場人物を「聞き手」と表す。また、原文のアイロニーに込められる話し手の本心(アイロニーにより暗示されていること)を「話し手の本心」と呼ぶ。

4. 原文のアイロニーの対人関係機能と特徴

4.1 原文のアイロニーの対人関係機能

本稿では、Kotthoff (2003 : 402-3) の分類に準拠し、本稿のデータの原文のアイロニーを、その対人関係機能別に、以下のように「攻撃的なアイロニー」、「友好的なアイロニー」、「独り言のアイロニー」の3つに分類した。

- (A) 「攻撃的なアイロニー」: 主に対立的な関係にある人物同士の会話において用いられ、聞き手との対人関係・場の空気を悪く保持あるいは悪化させるもの。典型的には、話し手の聞き手に対する強い非難・攻撃・侮蔑・嘲笑・不満を表明する発話が含まれる。他に、聞き手の感情やその場の空気を悪くするような、第三者に対する強い非難や、状況に対する不満の表明も含まれる。
- (B) 「友好的なアイロニー」: 主に友好的な関係にある人物同士の会話において用いられ、聞き手との対人関係・場の空気を良好に保持・構築するもの。具体的には、聞き手が笑顔で受け止めたり、軽く聞き流したりできるような、ユーモアが込められたからかい、賞賛、自嘲、共通の知り合いの第三者をからかいの対象として聞き手の共感を得るものが含まれる。
- (C) 「独り言のアイロニー」: 独り言であるため、対人関係に関係しないアイロニー。自嘲や自分が置かれている状況を嗤うものが含まれる。

「攻撃的なアイロニー」と「友好的なアイロニー」の区別は、アイロニーで聞き手との対人関係を友好的なものとして保持・構築しようとする意図が話し手にあるか否かという区別であり、対象に対する否定的評価がアイロニーに含まれるか否かという区別とは異なる。「攻撃的なアイロニー」にはすべて何等かの否定的評価が含まれるが、「友好的なアイロニー」にも否定的評価が含まれ得る。これらは、親しい間柄の話し手と聞き手の間では、笑顔で受け止められたり、軽く聞き流されたりされて、友好的な対人関係が保持されたり、構築されたりする。また、「攻撃的なアイロニー」と「友好的なアイロニー」の区別は、話し手の意図の区別であるので、「攻撃的なアイロニー」が必ず実際に聞き手の気持ちを傷つける効果を持つわけではない。例えば、聞き手が攻撃的なアイロニーのターゲットであっても、聞き手がアイロニーと気づかなければ、聞き手は傷つかない。

本稿のデータの分析において、「攻撃的なアイロニー」と「友好的なアイロニー」の分類は、筆者が、話し手と聞き手が置かれている状況、話し手の前後の発話の内容、話し手の表情や口調、聞き手や周りの人物の表情、聞き手の応答の内容・口調、話し手と聞き手の日頃の関係などから総合的に判断した。原文のアイロニー78例の分類結果は、「攻撃的なアイロニー」が46例、「友好的なアイロニー」が30例、「独り言のアイロニー」が2例であった。

4.2 原文のアイロニーの特徴

典型的なアイロニーは否定的な評価・態度を含むとされるが、原文のアイロニーを見ると、「攻撃的なアイロニー」(46例)と「独り言のアイロニー」(2例)はすべて、聞き手や第三者、話し手自身、状況に関する何らかの否定的評価や意見、態度を含んでいた。一方、「友好的なアイロニー」で

は、30 例中、明確に聞き手や第三者、話し手自身、状況に関する何等かの否定的評価や意見、態度を含むと思われるものは24例で、他に、否定的な表現で肯定的評価を表すアイロニーが3例、否定的あるいは肯定的な評価を含むと判断し難かったものが3例あった。否定的評価を含む「友好的なアイロニー」には、聞き手の資質や行動、発言、聞き手に関連すること(聞き手が作った料理、聞き手の仕事など)について軽くからかったり非難したりするものや、自嘲(自身に関連すること)についての何等かの否定的評価を含むもの、第三者をからかうもの(第三者についての否定的評価を含むもの)などが含まれていた。

アイロニーのターゲットは、「攻撃的なアイロニー」においては、聞き手(および聞き手に関係する人物や状況)が大半であり、46例中38例であり、他には、第三者と話し手自身が3例ずつ、状況が2例であった。「友好的なアイロニー」においても、ターゲットは聞き手が最も多く、30例中17例であり、他に、状況が7例、第三者と話し手自身が3例ずつであった。「独り言のアイロニー」は、2例とも、話し手自身がターゲットであった。

評価・態度の表し方については、否定的評価・態度を表す際には、1) 肯定的な評価を表す形容詞(adorable, charming, delicious, excellent, good, great, groundbreaking, lovely, nice, useful, sweet, well done など)や動詞(like, love など)を用いて評価を表す、2) 上記以外の方法で聞き手や話し手自身、第三者にとって好ましい状況や評価を表す(例えば、聞き手と男性との会話が親密過ぎると非難して “Yeah, that looked like work. (それは仕事に見えた)” (*The Devil Wears Prada*)と言ったり、身体に装着されているカテーテルについて “Don’t know how I ever did without it. (これまでこれなしでどのようにしてやって来られたのかわからない(くらい良い)” (*The Bucket List*)と言ったりする)、3) 良好な対人関係で見られる発話行為を表す表現(Thank you, Congratulations など)を用いる、4) 肯定的な評価を表す形容詞や動詞は含まずに明らかにその場の状況では “No” が答えとして予測される修辭疑問文を用いる(例えば、アシスタントに頼んだコーヒーがなかなか来ないときに “Is there some reason that my coffee isn’t here? Has she died or something? (私のコーヒーがまだ来ないのは理由があるの? 彼女が死んだとか?)” (*The Devil Wears Prada*)と言う)、などが多く見られた。ほかに、5) 自分の希望と反対のことをするように指示する(例えば、急いで欲しいのに “By all means, move at a glacial pace. You know how that thrills me. (お願いだから、氷河のようにゆっくり動いて。私がそういうのが大好きなのはわかっているでしょ)” (*The Devil Wears Prada*)と言う)例もあった。肯定的評価を表す場合には、否定的な評価や態度を表す名詞句 (“biggest disappointment (最もがっかりしたこと)”, “one more little thing (もう一つ、つまらないもの)” や動詞 (“hate”) が用いられていた。否定的あるいは肯定的評価を含むと判断し難かった例は、1) 聞き手が自分の身体で自動ドアが閉まらないようにした方法について “Oh, this technique. It’s always very, very modern technique this way. (この方法か。これは、いつでもとても現代的な手法だ)” (*While You Were Sleeping*)と言うもの、2) 明らかにプレゼントに大喜びしている友人について、別の友人に “I think she likes it. (彼女は気に入っていると思う)” (*The Devil Wears Prada*)と、確信が持てないような控え目な表現 (understatement) を使って言うもの、3) 競合店の閉店について “I have a sad announcement to make. (悲しい報告がある)” (*You’ve Got Mail*)と言って、それを喜ぶ親族に報告するものであった。

5. アイロニーの翻訳方法

本稿のデータの英語映画の台詞のアイロニーの日本語字幕翻訳は、アイロニーとしての解釈の可能性の有無および原文のアイロニーにおける話し手の本心の明示ないし暗示の有無の二つの

基準により、以下の種類に分類することができた。それぞれの例は、次節で挙げる。

- (a) ほぼ忠実な訳(以下、「同アイロニー」):アイロニーとしての解釈の可能性が保持され、原文のアイロニーにおける話し手の本心が暗示されている
- (b) 原文とは異なるアイロニーとして訳す(以下、「別アイロニー」):アイロニーとしての解釈の可能性が保持されるが、原文のアイロニーにおける話し手の本心とは異なる(あるいは、少しずれる)「本心」が暗示されている
- (c) 話し手の本心の明示(以下、「本心の明示」):アイロニーとしての解釈の可能性がなく、原文のアイロニーにおける話し手の本心が明示されている
- (d) アイロニー以外の表現により話し手の本心を暗示(以下、「本心の暗示」):アイロニーとしての解釈の可能性がなく、(アイロニー以外の表現により)原文のアイロニーにおける話し手の本心が暗示されている
- (e) 原文と全く異なる訳(以下、「置き換え」):アイロニーとしての解釈の可能性がなく、原文のアイロニーにおける話し手の本心が明示も暗示もされていない
- (f) 原文のアイロニーの字幕における省略(以下、「省略」):原文のアイロニーの表現(発話の一部あるいは発話全体)が訳されていない(対応する表現が存在しない)

アイロニー78例のうち、「同アイロニー」が55例(71%)、「別アイロニー」が3例(4%)、「本心の明示」が9例(12%)、「本心の暗示」が1例(1%)、「置き換え」と「省略」がそれぞれ5例(6%)であった。「同アイロニー」と「別アイロニー」を合わせた、アイロニーとしての解釈可能性が保持されている訳の割合は全体の約4分の3である。Pelsmaekers & Van Besien (2002) および De Meo (2015) のアイロニーの字幕翻訳研究では、ほとんどの例でアイロニーとしての解釈の可能性が保持されていたのに比べると、アイロニーの解釈の可能性が保持される割合がかなり低いことがわかる。また、「同アイロニー」以外の、「別アイロニー」、「本心の明示」、「本心の暗示」、「置き換え」、「省略」を合わせると全体の約3割を占める。しかし、これらの翻訳方法は、アイロニーの翻訳一般に関する先行研究はもとより、アイロニーの字幕翻訳に関する実証的な先行研究においても、アイロニーの翻訳方法の例として挙げられていないように思われる。これらの点については、7節で考察する。

アイロニー78例の翻訳方法を原文のアイロニーの対人関係機能別に集計した結果をまとめたものが表1である。

表1 原文のアイロニーの対人関係機能別の翻訳方法の数と割合

	A「攻撃的なアイロニー」		B「友好的なアイロニー」		C「独り言のアイロニー」		計	
	数	%	数	%	数	%	数	%
a「同アイロニー」	31	67	23	77	1	50	55	71
b「別アイロニー」	3	7	0	0	0	0	3	4
c「本心の明示」	7	15	2	7	0	0	9	12
d「本心の暗示」	1	2	0	0	0	0	1	1
e「置き換え」	0	0	5	17	0	0	5	6
f「省略」	4	9	0	0	1	50	5	6
計	46	100	30	100	2	100	78	100

対人関係機能別では、攻撃的なアイロニーと友好的なアイロニーに共通して、アイロニーとしての解釈可能性が保持されるように訳出される場合(「同アイロニー」および「別アイロニー」)が最も多く、各の全体の約4分の3を占めていた。しかし、アイロニーとして訳されない場合の翻訳方法に両者の違いが見られた。攻撃的なアイロニーでは、「本心明示」の割合が15%と比較的高く、次に「省略」(9%)、「本心の暗示」(2%)であり、「置き換え」の例はなかった。一方、友好的なアイロニーでは、「置き換え」の割合が17%と比較的高く、次いで「本心の明示」が7%であった。対人関係の機能がない「独り言のアイロニー」は、「同アイロニー」と「省略」が1例ずつであった。なぜ攻撃的なアイロニーでは「本心の明示」が比較的多く、一方、友好的なアイロニーでは「置き換え」が比較的多いのだろうか。この点についても7節で考察する。

6. アイロニーの翻訳方法の選択の要因と対人関係機能

本節では、原文のアイロニーの対人関係機能別に、各翻訳方法の例を挙げるとともに、異なる翻訳方法の選択に関連していると思われる要因、原文のアイロニーの対人関係機能の保持の有無について考察する。

6.1 攻撃的なアイロニー

6.1.1 「同アイロニー」

「同アイロニー」として訳された場合は、前後の文脈や状況、話し手の口調・表情、ストーリーの展開等から、話し手の本心と、聞き手や第三者に対する話し手の強い非難・不満の意図が容易に理解でき、原文のアイロニーの話し手の本心および攻撃的な対人関係機能が共に保持されていた。

(1) は、「同アイロニー」の典型的な例である。原文の“**Sounds like a plan.** (いい考えのように聞こえる)”も、それをほぼ忠実に訳している字幕の「いい考えだな」も、話し手の表情にも助けられ、聞き手の発言内容を強く非難・嘲笑していると解釈できる。また、褒め言葉に対して文句はつけにくいので、聞き手を突き放し、話題をここで終えようとする意図が感じられ、<これ以上つきあっていない、もう勝手にしろ>という気持ちも伝わり、非難・嘲笑の感情が強調される。よって、攻撃的なアイロニーの対人関係機能が保持されている。

(1) Henry: I'll be back to check on you.

様子を見に寄る

Monte: When you do, you'll find me dead by my own hand with a smoking Navy Colt Revolver by my side and a note of farewell to no one in particular.

自ら命を絶ってるかもな // 死体の横には銃があるんだ // そばには宛名のない遺書も

Henry: Sounds like a plan. (09:05) (怒った表情と口調で)

いい考えだな

(*The Magic of Belle Isle*)

[以下、考察の対象とする原文のアイロニーとその字幕に下線を施す。原文のアイロニーの直後の()内の数字は、DVDの時間表示を示す。話し手や聞き手の口調、表情等に特徴が見られる場合は、()内に特徴を記す。字幕の表現を記す際、字幕が2枚以上にまたがる場合は、「//」で字幕の移行を表す。考察の対象となるアイロニーが字幕で訳出されていない場合は、「φ」で示す。]

「同アイロニー」の中には、傍点や独特の表現がアイロニーの標識として使われるものもある。これにより、アイロニーであることが明確になるとともに、非難の意図が強調される。(2) の下線部は、話し手の表情から、本心を表していないことは明らかである。話し手はさらに、“looked” を強調する、アイロニー独特の口調でこの台詞を言っている。字幕では、傍点によりアイロニーであることが強調されている(なお、原文では動詞の“looked” が強調されるのに対し、字幕の傍点は「仕事」に施されている)。話し手の表情や口調と相まって、直訳している字幕からも、強い非難の意図が伝わる。(3) では、傍点に加えて、「・・・だこと」という気取った表現の使用もアイロニーの標識となっている。

(2) Andy: Oh, Lily, he's just a guy I know from work.

仕事関係の人よ

Lily: Yeah, that looked like work. (01:14:50) (冷たい表情と口調で)

仕事に見えたわ

Andy: You know, you're making a big deal out of ...

意味ないのよ

(*The Devil Wears Prada*)

(3) Miranda: Florals? For spring? Groundbreaking. (58:13)

花柄? 春の号に? 斬新だこと

(*The Devil Wears Prada*)

「同アイロニー」の中には、原文のアイロニーの「話し手の本心」が保持される範囲内で、原文のアイロニーの一部が省略されたり、時制が変更されたり、情報が単純化あるいは具体化されたりしている場合もある。これらは、字幕の受け手である視聴者の処理労力の軽減を図っていると考えられる。

6.1.2 「別アイロニー」

「別アイロニー」は、アイロニーとして訳されるものの、原文のアイロニーにおける話し手の本心と異なる(あるいは、少しずれる)「本心」が暗示されている場合である。「別アイロニー」の例は、1) 原文では聞き手が非難の直接のターゲットとなっていないのに対し、字幕では聞き手が非難の直接のターゲットとなることにより、非難の対象がより明確になっている場合(2例)と、2) 原文では聞き手が非難のターゲットとなっているのに対し、字幕では、おそらく文化的な事情から、話し手がターゲットになっている場合(1例)であった。字幕においても、原文と同様に、攻撃的な対人関係機能は保持されていた。

(4) と (5) は 1) の例である。(4) において、George は、<今は仕事をしていないので、Erin の留守中に Erin の子供の面倒をみてもよい>と話し手 (Erin) に申し出た。無職であることは通常、職を得るための長所と見なされないが、George は “I don't have a job now, so... (今は仕事がないから...)” と言って申し出たので、Erin は <無職なんて取り柄と言えないのに>という気持ちを込めて、“That's a great recommendation. (それは素晴らしい取り柄だ)” と述べた。原文では、少なくとも言葉の上では、無職であることが取り柄と言えるかどうかの問題となっている。一方、字幕の「無職とは いいご身分ね」は、無職であるという話し手の状況自体を問題としている。字幕では聞き手の状況が直接のターゲットになっているため、字幕の方が、聞き手への攻撃性が強くなっていると

言える。(なお、聞き手の就労状況自体がアイロニーのターゲットとなることにより、このアイロニーに対する聞き手の応答(自分の就労状況についての説明)に、よりスムーズにつながるようになっている。)

(4) George: If you need someone to look after your kids at, you know, when they're at school or after school or whatever, I don't have a job now, so...

子供が学校から戻ったら 俺が預かるよ // どうせ無職だ

Erin: Oh! That's a great recommendation. "I'm unemployed." (24:57)

無職とは いいご身分ね

George: By choice. I work when I need to.

必要な時だけ働く

(Erin Brockovich)

(5) において、原文のアイロニーの文字通りの意味は<何て面白いんだ。君は何と面白い生活をしているのか>であるが、話し手の本心は、<週末に田舎に来てまで仕事をすると、何とつまらない生活だ>ということであろう。一方、字幕は、聞き手の生活に焦点を当てず、「(週末に田舎に来てまで仕事をすると)さすが売れっ子」と、聞き手自身を褒めているかのような表現(アイロニー)となっている。聞き手自身がターゲットとなることにより、原文よりも聞き手への攻撃性が強くなっている。

(5) Mark: I brought Natasha. Get a bit of work done. Thought I might make it a not entirely wasted weekend.

僕はナターシャと // ついでに仕事を片付けてしまえる

Daniel: How interesting. What a gripping life you do lead. (32:56)

なるほど さすが売れっ子

(Bridget Jones's Diary)

(6) は 2) の例である。原文では、話し手 (Rita) は、話し手の気分を台無しにするような聞き手 (Phil) の “People like blood sausage, too. People are morons. (人は(ウッドチャックを可愛いと言いながら、豚の肉や血を混ぜて作られた)ブラッドソーセージも好む。人は馬鹿だ)” という発言に対し、その態度を非難する意図を込めて “Nice attitude. (すてきな態度ね)” と言っている。一方、字幕は、「悪かったわね」となっている。この訳は唐突な感じがするが、話し手はこの後で “I like blood sausage. (私はブラッドソーセージが好き)” と言っていることから、<ブラッドソーセージが好きな馬鹿な人間で悪かったわね>という意図で訳されていると思われる。日本語の「悪かったわね」という表現は、文字通りでは、自分に非があることを認める表現であり、謝る気持ちを表して使われる場合もある。しかし、謝る気持ちは全くなく、<・・・で何が悪いの。・・・だからと文句を言われる筋合いはないわ>と開き直る場合にも用いられる。後者の用法はアイロニーと言える。この場面の字幕の「悪かったわね」は、話し手が明らかに嫌な顔をしていることや話し手が聞き手に謝る理由はないことから、後者を意図して訳されており、視聴者も後者(アイロニー)として解釈する可能性が高いと思われる。聞き手の発言に辟易としている気持ちが感じられ、原文のアイロニーの攻撃的な対人機能が保持されていると考えられる。なぜこのように別のアイロニーとして訳されているのか、理由は定かではないが、年下の番組プロデューサー(女性)が初対面の年上のベテラン気象予報士(男性)に対し、その態度を非難することは、日本文化ではあまり行われなことが理由の一部とし

て推測される。

(6) Rita: I think it's a nice story. He comes out, and he looks around. He wrinkles up his little nose.

He sees his shadow or he doesn't see it. It's nice. People like it.

ウッドチャックってかわいいわ // 目を覚まし 鼻をピクピク // 自分の影を見るかどうかで
春を占う

Phil: You are new, aren't you? People like blood sausage too. People are morons.

まあ 人は好き好き // 血のソーセージが好きって奴もいる

Rita: Nice attitude. (05:15) (明らかに嫌な顔をして)

悪かったわね

Phil: Look in the mirror and see what you look like doing that groundhog thing. For me? Once?

He comes out and looks at his little shadow. Would you like some blood sausage? I have
some in the glove compartment.

今の顔でもう一度鏡を見てみるよ // “ウッドチャックが目を覚まして 鼻をピクピク” // 血
のソーセージ 食う?

Rita: I like blood sausage.

私の好物よ

(Groundhog Day)

6.1.3 「本心の明示」

原文のアイロニーに込められる話し手の本心が明示されているのは、1) 曖昧な解釈が可能である場合(原文のアイロニーの表現の文字通りの意味が、ある側面あるいは別の視点からはターゲットにあてはまり得るため、そのままアイロニーとして訳されると、それが話し手の本心と解釈されて、その裏に込められた話し手の本心が伝わらない可能性がある場合)、2) 日本語ではあまりなじみのないアイロニーであるため、アイロニーとして訳されると視聴者が理解しにくい、あるいは違和感を持つと思われる場合、3) アイロニーとして忠実に訳されると、長く複雑になるなどの理由により理解しにくくなる場合、4) 前後の台詞からも、非言語的特徴からも、話し手の本心が推測しにくいため、アイロニーとして訳されると、それが話し手の本心を表すと誤解される可能性がある場合であった。原文のアイロニーにおける話し手の本心の内容は聞き手に対する非難にあたるので、本心が明示されることにより、原文のアイロニーの攻撃的な対人関係機能は保持されていた。

(7) は 1) の例である。“that's big of you. (君は親切だ)” は、仕事を辞めたのに元雇用主の双子の子供達の宿題を手伝っている聞き手(Andy)に向けられている。本来の文字通りの意味で用いられれば、聞き手を褒めたり、聞き手に感謝したりする表現であるが、ここでは、聞き手を褒めるのではなく、<君の親切さは度を超えていて呆れる>と言おうとしている。「隠されたアイロニー」(河上 1998)にあたる。聞き手の行動は確かに親切であると見なせるために、アイロニーとして直訳されると、文字通りに聞き手を褒めていると(少なくとも一瞬)誤解して解釈される可能性がある。そこで、字幕では話し手の本心が明示されていると考えられる。話し手の本心は聞き手の行動への否定的な評価であるので、本心の明示により(さらに、話し手の呆れた表情も加わり)、原文のアイロニーの攻撃的な対人関係機能は保持されている。

(7) Nate: Hey. I went to Dean & Deluca. Man, they charge, like, five dollars a strawberry there.

But I figure since you quit your job, we should celebrate.

高級なデリに行ったらイチゴが 5 ドルもしたよ // でも 君が仕事を辞めたんだから //
今夜はお祝いだ

Andy: Listen, Nate.

ネイト・・・

Nate: Wait a minute. You quit your job, but you're still working on the twins' science project?

Well, that's big of you. (54:44) (明らかに呆れた表情で)

なぜ 双子の理科の宿題を やってるんだ? // あきれたね

(*The Devil Wears Prada*)

(8) は 2) の例である。話し手(編集長 Miranda)は、書類を取り出すのに手間取る聞き手(アシスタントの Andy)に、“By all means, move at a glacial pace. You know how that thrills me. (お願いだから、氷河のような速さで動いて。私がそういうのが大好きなのはわかっているでしょ)” と言っている。本心は、<遅いわね。もたもたしないで、早く出しなさい。本当にイライラするわ>といったところである。字幕は、苛立つ話し手の本心を表している。本心の明示と、非言語的特徴により、攻撃的な対人関係機能が保持されている。本心が明示されているのは、原文のアイロニーが日本語では理解しづらいタイプのアイロニーであるためと思われる。日本語では、自分の希望と反対のことをするように相手に頼むことは稀である。

(8) Andy: Okay. Um, yeah, sure. I have it right...here.

分かりました // ここにありますから

Miranda: By all means, move at a glacial pace. You know how that thrills me. (01:20:40)

(書類を受け取ろうと手を伸ばし、苛立つ表情、口調、ジェスチャーで)

氷河の流れみたいに遅いわね 鳥肌が立つわ

(*The Devil Wears Prada*)

(9) は 3) の例である。原文では、話し手(Sydney)は、聞き手(Shepherd 大統領)に、自分がロビイストとして働いていた環境保護団体から解雇された理由を説明している中で、大統領と個人的に親しくなり、大統領とダンスをしたり、大統領専用機に乗ったり、雑誌 *People* の表紙にも載ったりしたにもかかわらず、雇用主にはそれを十分に評価してもらえなかったと不満に思っているかのようになっている。実際には、話し手は、大統領と親しくなり、マスコミに取り上げられたものの、肝心の環境保護法案に関する約束を大統領に反故にされ、ロビイストとして期待された成果をあげられなかったことが解雇の理由であると理解している。その原因を作った聞き手に、あてこすりとして、「あなたと親しくなって、あんなに成果をあげたのに」と言っている。聞き手への強い怒りが口調や態度にあらわれていることから、下線部がアイロニーであることは明らかである。しかし、早口でまくし立てられている台詞を直訳すると大変長くなり、視聴者がそれを短時間で読んでその内容と話し手の本心を理解するのは容易ではないと思われる。字幕は、話し手の本心(解雇へと至った理由についての考え)を簡潔に表している。聞き手(大統領)が話し手を誘ったことと話し手との約束を反故にしたことが、話し手の解雇に結びついたことは聞き手も承知しているので、本心を明示することが聞き手への非難、攻撃になっている。アイロニーではなくることにより、言葉の攻撃の力は多少弱まっているように思われるが、話し手の口調や表情により、強い攻撃の意図は十分に伝わる。

(9) Shepherd: Why did he fire you?

理由は？

Sydney: Total failure to achieve any of the objectives for which I was hired. I told him he was being unreasonable. After all, I did get to dance with the President and ride in Air Force One a couple of times. But you know those prickly environmentalists. It's always gonna be something with them. If it's not clean air, then it's clean water. Like it isn't good enough that I'm on the cover of People Magazine. (01:34:04) (怒って)
 任務に失敗したからですって // 不当だと抗議したわ // 大統領と踊り 専用機に乗ったことが— // お気に召さなかったのよ // 派手な話題は環境団体のイメージダウンですって

Shepherd: I'll call him.

彼と話そう

(*The American President*)

(10) は4)の例である。聞き手(Terry)の“I love you.”という発話について、話し手(Sheila)は<心がこもっていない>と感じ、“That was really convincing. (それはとても説得力がある)”と言っている。Sheila の本心は、このアイロニーの台詞のみで表現されており、言語・非言語コンテキストから簡単には推測できない。しかも、映画のストーリー上、この Sheila の本心が視聴者に伝わることは重要である。この後に Terry が Sheila の元を去ったことが、その後の Sheila の自殺に関係していると考えられるためである。字幕では、話し手の本心(聞き手の言葉への不満)の明示によって、攻撃的な対人関係機能が保持されている。

(10) Sheila: Don't you wanna tell me that you love me?

“愛してる”は？

Terry: I love you.

愛してる

Sheila: That was really convincing. (16:04)

ウソっぽい

(*You Can Count On Me*)

6.1.4 「本心の暗示」

話し手の本心がアイロニー以外の表現により暗示されていたのは、原文のアイロニーが直訳されると理解しにくいと思われる場合であった。(11) では、話し手(Erin)は、夜中に騒音を立てていた上に不躰に電話番号を聞き出そうとする隣人男性(George)を、独身女性であると思えば誰でも強引にデートに誘うような男性であると決めつけ、彼に対して、不機嫌かつ攻撃的に、自分の状況についてまくし立てている。その中で、生後10か月の娘がいると伝え、自虐的に“Sexy, huh?(セクシーでしょ)”というアイロニーを用いている。このアイロニーにより、<若い娘がいるとわかったら、あなたはもう私を魅力的(sexy)とは思わないでしょ、デートに誘おうという気持ちも失せるでしょ>というような、聞き手の人間性を軽蔑する気持ちが暗示されている。一方、字幕の「私は子持ち女よ」は、直前の聞き手の「女の子(がいるのか)?」という質問に対する答えの一部になっている。同時に、「子持ち女」という軽蔑的な表現の使用により、<あなたは、どうせ私を「子持ち女」と見下すのでしょ>というような、聞き手への侮蔑の気持ちが暗示されている。話し手の本心が暗示されることにより、原文のアイロニーの攻撃的対人関係機能が保持されている。字幕がアイロニーとして直訳

されていない理由は定かではないが、幼い娘がいることと、「セクシー」であるかどうかの関係はそれほど明確ではないため、理解されにくいと考えられたのではないかと思われる。

(11) Erin: Oh, I got numbers coming out of my ears. For instance, ten.

腐るほどあるわ たとえば 10

George: Ten?

φ

Erin: Yeah. That's how many months old my baby girl is.

生後 10 ヶ月の娘がいるわ

George: You got a little girl?

女の子？

Erin: Yeah, yeah. Sexy, huh? (18:23) How about this for a number? Six. This is how old my other daughter is. Eight is the age of my son. Two is how many times I've been married and divorced [...]

ええ 私は子持ち女よ // もう 1 人の娘は 6 歳 息子は 8 歳よ // 私は結婚と離婚が 2 回 [...]

(Erin Brockovich)

6.1.5 「省略」

アイロニーが省略されている(字幕で訳出されていない)のは以下の場合であった。1)早口で長い台詞の一部であり、かつ話し手の本心と攻撃的な意図が話し手の口調・表情や前後の台詞から十分に伝わる場合、2)アイロニーを直訳すると本心を表すと誤解される可能性が有り、かつストーリーの展開上、話し手の本心の伝達およびアイロニーの対人関係機能の重要性が低い場合。

(12) と (13) は 1) の例である。(12) では、主に話し手の怒りに満ちた口調や表情によって話し手の本心(聞き手の申し出に対する非難)と攻撃的な意図・態度が伝わる。(13) では、主に前後の台詞によって話し手の本心(聞き手が買った贈り物に対する非難)が伝わる。話し手が聞き手に敵愾心を抱いていることは既に明らかであるので、これにより、聞き手に対する攻撃も果たされる。

(12) Shepherd: I'll call him.

彼と話そう

Sydney: You'll call him? You mean you'll call him yourself? Personally? It'll come from the President? That's a great idea. (1:34:22) I think you should call Leo and make a deal. [...]

(明らかに怒った口調と表情で)
あなた個人として? 大統領として? // φ レオと取引して [...]

(The American President)

(13) Mrs. Doubtfire: You could either wear it or feed a small country. That's so nice. (1:32:36) So decadent.

売れば小さな国が養えるわ // φ 退廃的な贈り物

(Mrs. Doubtfire)

(14) は 2) の例である。話し手 (Brenda) の台詞 “Nice to see you Erin. I missed you. (会えて嬉しいわ。会えなくて淋しかった)” は、長期欠勤後に久しぶりに職場に来た Erin に対する非常に

早口の言葉である。この表現は、通常、久しぶりに会う人への親しみを込めた軽い挨拶として用いられる。しかし、ここでは、二人のこれまでの関係や、この後にわかる Erin の留守中の Brenda の行動から考えて、嫌味が込められた、言葉上のみ親しげな挨拶(アイロニー)であると解釈される。しかし、直前に二人の間にこれがアイロニーであることを示すようなやりとりはないため、忠実に訳されると、視聴者に話し手の本心と受け取られる可能性がある。そうすると、その後のストーリーと矛盾が生じてしまう。また、続く Erin の台詞は、Brenda のアイロニーを無視し、直前の自身の発話に続けて自分の用件を話しているため、省略しても、前後のつながりに支障がない。また、二人の対立関係は、この会話の後に明確になるので、アイロニーの対人関係機能がここで発揮される必要性は低い。

(14) Erin: Someone took my stuff.

荷物は？

Brenda: Nice to see you Erin. I missed you. (36:42) (早口で抑揚なし)

エリン

Erin: I had photos of my kids, a mug...

写真やカップよ

(Erin Brockovich)

6.2 友好的なアイロニーの翻訳方法

会話の参加者を楽しませたり、一緒に笑ったりするなど、対人関係を良好に保持・構築するのに役立つと考えられるアイロニーを「友好的なアイロニー」と定義した。本節では、友好的なアイロニーの字幕翻訳において、翻訳方法の選択に関連する要因と、原文のアイロニーの対人関係機能の保持の有無を考察する。

6.2.1 「同アイロニー」

「同アイロニー」に訳される場合、話し手の本心は別のところにあることは、原文と字幕共に、状況や前後の台詞、話し手の口調・表情、ストーリーの展開、一般的背景知識から容易に理解できた。対人関係機能については、映像から友好的とわかる場でアイロニーが用いられている場合に、字幕のアイロニーによって友好的な関係が否定されると思われる場合はなかった。また、初対面の登場人物同士の会話においては、字幕のアイロニーが、原文のアイロニーと同様に、友好的な関係を構築する上で役立つように思われた。

たとえば、(15) では、アイロニーが対人関係を良好に「保持」する機能を果たしている。主人公 Bridget が作った、かなり得体の知れない料理を主人公の親友たちが褒めちぎっている。料理を作っている段階の状況と、どぎつい青色のスープを不思議そうにスプーンですくう親友たちの表情から、本心から褒めているのではないことがわかる。それは主人公にも伝わっている。しかし、本心からではなくとも互いに褒め合う中に、話し手の善意や思いやり、および料理をからかわれている主人公を含む、会話に参加する人物たちの共感や愉快的な気持ちを読み取れる。もし、字幕において、本心が明示されて料理がけなされていたら、対人関係が悪化したと視聴者に受け止められる可能性が高い。

(15) Mark: Excellent. (1:04:42)

うまい！

Tom: Delicious. Really special. (スープを口にして、一瞬、顔をしかめて)

本当に！ 珍しい味だ

Mark: It's really--really very good.

とてもうまい

Shazzer: Really. It's very nice.

おいしいわ

(こらえきれず、皆が笑う)

(*Bridget Jones's Diary*)

(16) においては、アイロニーが良好な対人関係を「構築」する上で役立っている。Bob と Charlotte は初対面である。Bob は Charlotte が大学で専攻した哲学について “there’s a good buck in that racket (その仕事はいいお金になる)” とアイロニーを言っている。哲学が普通は儲かる仕事に結びつかないことは双方とも認識しており、アイロニーと解釈できる。アイロニーで言われることにより、ユーモアが感じられ、認識の共有の確認もできる。聞き手 Charlotte は、“Yeah. So far, it’s pro bono. (そうね。これまでのところ、無料奉仕だけれど)” と返事をしている。弁護士の仕事に対してよく使われる表現 “pro bono (無料奉仕の)” の使用により、今は無料奉仕でお金にならなくとも、今後はお金になる仕事をするようになる可能性があることが示唆される。そもそもこの時点で Charlotte は仕事をしていないので、収入がないのは無料奉仕の仕事をしているためであるかのように言うこの返答は、Bob のアイロニーへの共感を示すために用いられているアイロニーである。双方の気の利いた発話が、二人が良好な関係を構築するのに貢献していると思われる。もしここで話し手 Bob が、「哲学という分野ではお金にならないだろう」と述べたら、この初対面の二人の関係がそれほど良好に構築されなかった可能性もある。「同アイロニー」が用いられている日本語字幕においても、視聴者は、アイロニーの使用と理解が、二人が良好な関係を構築するのに寄与していると感じることができると思われる。

(16) Bob: What did you study?

専攻は何？

Charlotte: Philosophy.

哲学よ

Bob: Yeah, there’s a good buck in that racket. (34:03)

そいつは儲かりそうだ

Charlotte: Yeah. So far, it’s pro bono. (軽く笑いながら)

“無料奉仕” だわね

(*Lost in Translation*)

参加者が笑い合うようなユーモアではないが、アイロニーが対人関係を良好に保持するのに役立っていると考えられる場合もある。(17) では、話し手(宇宙船船長 Jim)は、宇宙船内の二酸化炭素濃度の上昇の程度が予測どおりであるという、話し手を安心させようとする聞き手(ヒューストン管制センター管制官)の発言に対し “that’s very comforting to know (それがわかって気持ちがとても楽になる)” と言っている。この台詞は、二酸化炭素濃度の急激な上昇の深刻さを理解している話し手の本心を表しているとは考えにくい。話し手が間髪を入れずに “What do we do about it? (それ(=二酸化炭素濃度の上昇)にどのように対応するのか?)” と、問題の解決方法を尋ねていることから、そのように推測できる。よって、アイロニーと解釈できる。このアイロニーは、話し手が、<「予測どおりだ」と言われても安心などできない>という本心を裏に込めつつ、言葉の上では

相手の配慮を素直に受け取り、管制センターとの関係を良好に(平静に)保ち、問題解決に冷静に集中しようとしていることを表している。管制官も話し手の意図を理解し、「安心しろ」などという言葉をかけてことなく、問題解決に向けての管制センターの動きを伝えている。字幕においても、「同アイロニー」にあたる「そいつはうれしいね」は、直後に短い「それで」という質問を伴っており、アイロニーとしての解釈と原文アイロニーの対人関係機能を保持していると考えられる。

(17) Houston: Jim, that sounds about right. We were expecting that.

こっちが予想してた読みだ

Jim: Well, that's very comforting to know, Houston. (01:27:36) What do we do about it?

(ごく普通に、冷静な口調で)

そいつはうれしいね それで

Houston: Jim, we are working on a procedure down here for you.

やってもらいたいことがある

(*Apollo 13*)

話し手が取り繕って半ば自嘲的に言うアイロニーもある。(18) では、好きな男性に家にあがってもらいながら、話し手が、自分が普段読んでいる雑誌を“high-quality magazines (高級な雑誌)”と言っている。続けて“with helpful fashion and romance tips (ファッションと恋愛について役に立つ助言が載った)”と言って、アイロニーであることを明らかにしている。自分が普段読んでいる雑誌が弁護士である男性に<低俗>と思われるのではないかと思い、あえて自虐的に言っていると考えられる。取り繕うとしては失敗してばかりの話し手らしい発話である。男性に自分をよく見せたい気持ちの表れとも捉えられ、友好的な対人関係を保ちたい意図が見て取れる。字幕においても、「同アイロニー」により、アイロニーとしての解釈と、原文のアイロニーの対人関係機能が保持されている。「高級な」への傍点の使用も、アイロニーの解釈を助けている。

(18) Bridget: Uh... give me just a minute. Um...keep yourself busy. Read something.

Lots of very high-quality magazines...with helpful fashion and romance tips.

(1:27:18) I'll be right with you.

何か読んでいて 高級な雑誌があるわよ // ファッションと恋愛記事だけ

(*Bridget Jones's Diary*)

これまで見てきた例は、すべて否定的評価を含むアイロニーであったが、4.2 節で見たように、友好的なアイロニーの中には、否定的なことを言って、肯定的な評価をするものも 3 例含まれていた。これらはすべて、「同アイロニー」に訳されていた。2.1.2 節で触れたように、「けなしてほめる」型のアイロニーでは、特に、話し手と聞き手の良好な対人関係の保持のために、アイロニーであること(文字通りの意味は話し手の本心をあらわしていないこと)が聞き手に理解されることが肝要である。3 例の原文と字幕は、いずれも、前後の発話や話し手の口調・表情等から、アイロニーであることが聞き手にも、視聴者にも明確に伝わるようになっていた。(19) では、話し手(Erin の上司 Ed)は、聞き手(Erin)に、“I really hate you sometimes, you know that? (君のことが時々本当に憎たらしいよ、わかるか?)”と言っているが、聞き手(Erin)への親近感を示していることが、その前からの話し手の口調や表情、笑い声などからわかる。よって、Erin は、この直後に、“No, you love me. (いい

え、あなたは私のことが好きだ)”と、話し手の本心を言い当てている。字幕では、「同アイロニー」として「ニクたらしい子だ」と訳されているが、これも、話し手の表情や笑い声があることから、親近感が表されているとわかる。(20)では、話し手(Andy)は、自分がプレゼントとして持ってきたバッグを取り出して、“one more ... little thing (もう一つ...つまらない物)”と言っている。友人に喜ばれる、入手が難しい高級ブランド品であることを承知の上で、このように言っている。この台詞の前にも、別の品物の値段を言っていることから、この友人達とは、謙遜するような仲ではないことがわかるので、原文の“little thing”も字幕の「つまらないもの」も、本心でも謙遜でもなく、プレゼントを引き立てるアイロニー(冗談)として言われていることがわかる。(21)では、推薦状の一部にアイロニーが用いられている。下線部の、<これまでに雇ってきたアシスタントの中で、もっともがっかりさせられた>という、元部下を最大限にけなす内容は、書き手の鬼編集長 Miranda がいかにも言いそうなことであるため、最初は、アイロニーではなく、ミランダの本心を表していると解釈される可能性が高い。しかし、その直後の、もし彼女を雇わなければ、あなたはばかです、という文により、それがアイロニーであり、実は、最大の讃辞が込められていたことがわかる。アイロニーになっていることにより、讃辞が一層引き立っている。字幕においても、「同アイロニー」として訳され、直後の文により、アイロニーとしての解釈が可能になり、原文と同様の効果が保たれている。

(19) Ed: I really hate you sometimes, you know that? (53:01) (笑いながら)

ニクたらしい子だ

Erin: No, you love me. (微笑み返して)

好きなくせに

Ed: (笑う)

(Erin Brockovich)

(20) Andy: Oh, one more... little thing. (38:51) (他より高い声で、リズムカルな口調で)

もう一つ // つまらない物

Lily: Oooh!

Andy: Do you want it? You want... Oh.

欲しい?

Lily: Gimme, gimme, gimme!

頂だい!

(The Devil Wears Prada)

(21) Editor: I called over there for a reference, left word with some snooty girl. Next thing you know, I got a fax from Miranda Priestly herself... saying that of all the assistants she's ever had... you were, by far, her biggest disappointment. (1:42:03) And, if I don't hire you, I am an idiot. You must have done something right.

君について聞くため“ランウェイ”に電話したら // ミランダ・ブリーストリー本人からファックスが // “今までのアシスタントで 最も期待を裏切ってくれた”// 君を雇わないなら私は大バカ者だと 最高の言葉だ

(The Devil Wears Prada)

なお、友好的なアイロニーにおいても、攻撃的なアイロニーと同様に、「同アイロニー」に分類される中には、直訳ではないものが含まれる。たとえば、原文のアイロニー表現自体の解釈が容易ではない場合(推論が必要である場合)に、原文から推論される具体的な状況を述べて、理解しや

ずくしている場合がある。(22) の下線部は、大統領の年頭教書を35分で全面的に書き直すよう指示された話し手の台詞である。原文のアイロニーの表現自体の解釈として、“I thought I was gonna be rushed. (急かされるだろうと思った)”(過去時制になっている) から、まずく話し手は実際には急かされなかった>が推論され、そこから<話し手には時間的余裕がある>が推論される。字幕では、原文の直訳ではなく、推論される話し手の状況を直接的に述べることにより、より理解しやすいアイロニーになっている。なお、余裕がないのに余裕があるかのように言うのは、話し手の強がり、自らへの鼓舞でもある。アイロニーを言えるだけの精神的余裕があることを聞き手に示すこともできる。よって、アイロニーとして訳されることには意味がある。

(22) Lewis: I know. Gotta rewrite the State of the Union.

年頭演説ね

A.J.: Every word, kid. It's a whole new ball game. You have exactly 35 minutes.

最初から書き直した // きっかり35分ある

Lewis: Oh, good. I thought I was gonna be rushed. (01:44:38) (軽く笑いながら)

なんだ 余裕だな

(*The American President*)

6.2.2 「本心の明示」

友好的なアイロニーの「本心の明示」は2例であった。1) 曖昧な解釈が可能である場合(原文のアイロニーの表現の文字通りの意味が、ある側面あるいは別の視点からはターゲットにあてはまり得るため、アイロニーとして訳されると、それが話し手の本心と解釈されて、その裏に込められた話し手の本心が伝わらない可能性がある場合)、2) 日本語ではほとんど見られないタイプのアイロニーであるため、アイロニーとして訳されると、視聴者にとって理解しにくいと思える場合であった。

(23) は1)の例である。下線部 “That’s so funny, Phil.” は、聞き手の Phil のからかいを話し手がどう受け止めたかをあらわしている。この直前の Phil の台詞 “Looking foxy tonight, man. (今晩は粋な格好をしているな)” は、続く “is your troop going to be selling cookies again this year? (君のボーイスカウトの中隊は今年も(活動資金集めのために)クッキーを売るとか?)” という台詞から、Larry をからかうアイロニーであったことがわかる。一瞬褒められたかと思ったところで、ボーイスカウトに擬えられてからかわれた Larry は、まったく傷つかずに Phil の台詞を単純におもしろいと思ったとは考えにくい。よって、Larry の台詞 “That’s so funny.” は、Larry の本心をあらわしているというより、<傷つくなあ>といった気持ちが込められたアイロニーであると考えられる。ただし、笑いながら言っているので、面白さも理解したと捉えられ、友好的なアイロニーであると言えよう。一方、字幕では、この台詞は、本心を明示して「ひどいな」と訳されている。ボーイスカウトを引き合いに出した Phil のからかいは第三者が聞けば確かに面白いため、“That’s so funny.” を直訳すると、視聴者にアイロニーとは解釈してもらえず、話し手が単に Phil のアイロニーをおもしろいと受け止めたと誤解される恐れがある。そのために、Larry の本心を明示して「ひどいな」と訳されていると思われる。これは本心を明示しているが、話し手は笑いながらこの台詞を言っているため、聞き手のからかいの面白さも理解したと捉えられ、基本的には友好的な関係が保持されている。

(23) Phil: [...] Wow. Looking foxy tonight, man. Hey, is your troop going to be selling cookies again this year?

[...] セクシーじゃないか // ボーイスカウトの集かい?

Larry: That's so funny, Phil. (17:34) (笑いながら)

ひどいな

(*Groundhog Day*)

(24) は2)の例である。話し手は、プレゼントのバッグをあまりに喜び夢中になっている友人 (Lily) の様子について、隣に座っているボーイフレンドの Nate に囁いている。Lily が喜んでいるのは明らかであるにもかかわらず “I think” という確信の度合いを弱める表現を用いているのは、ironical understatement という種類のアイロニーである。控え目な表現を使うことで、逆に、喜びようを強調している、ユーモアが込められたアイロニーである。また、このアイロニーは、否定的あるいは肯定的評価を含むと判断しにくいものである。よって日本語ではあまり見られない種類のアイロニーである。原文と同様にアイロニーとして直訳されると、なぜ確信度が弱められた表現が用いられているのかが日本語話者には理解しにくいと思われる。字幕では、確信度を弱める表現が抜けて、Lily の様子についての単純なコメント(話者の本心の明示)になっている。アイロニーとならなくとも、友人が喜ぶ様子についてコメントする、ボーイフレンドに対する友好的な発話と解釈できる。

(24) Andy: Oh, one more... a little thing. (高級ブランドバッグを取り出して)

もう一つ // つまらない物

Lily: Oooh! (興奮した口調・表情で)

Andy: Do you want it? You want... Oh.

欲しい?

Lily: Gimme, gimme, gimme! (バッグを Andy から奪うように受け取り、興奮した口調で)

頂だい!

Andy [隣に座っているボーイフレンドの Nate に]: I think she likes it. (38:55)

気に入ったのね

(*The Devil Wears Prada*)

6.2.3 「置き換え」

4節で見たように、友好的なアイロニーでは、「置き換え」が約2割の例で見られた。原文のアイロニーが否定的、批判的な判断や態度を含むという典型的なアイロニーではなく、日本語ではアイロニーと理解しにくいタイプのアイロニーである場合に多く見られた。

(25) では、酔っ払って、車を降りるときに転がり落ちた Bridget に対して、親友 Shazzer が車内から、“Mind the step. (足元に気をつけて)”と言っている。既に転げ落ちた後なので、今から足元に気をつけることはできない。よって、アイロニーである。ふざけることが好きで互いをからかい合う親しい友人同士のユーモアである。しかし、日本語で、このような場面で「足元に気をつけて」と言うアイロニーは理解されにくいと思われる。字幕の「大丈夫?」は、アイロニーではなく、このような場面で普通に心配してかけられる言葉である。次に続く、Tom の台詞 “She’s fine.” (字幕では「大丈夫」)にうまく繋がっていてもいる。原文のアイロニーの独特のユーモアは字幕では失われているが、仲の良い親友同士の会話として成り立っており、友好的な対人関係機能は保持されている。

(25) Bridget: Oops! (車から降りようとして転げ落ちる)

Shazzer: Mind the step. (11:45) (車の中から、笑いながら)

大丈夫?

Tom: She’s fine. Drive on. (車の中から、冷めた口調で)

大丈夫 じゃあな

(Bridget Jones's Diary)

(26) では、大きなソファを建物に運び入れようとして、Jack が入り口の自動ドアが閉まらないようにロックをはずすことを提案したのに対して、Lucy は自分が左右の扉の間に立って、その下を通過させた。身体を支え棒として使うという原始的な方法についての Jack の原文のアイロニー “It’s always very, very, very modern technique this way. (これはいつでも非常に現代的な手法だ)” は、Lucy の方法が意外なほど原始的であったことと、それが見事に問題解決をもたらしたことに対する驚き、感嘆をあらわしている。字幕は、原文とは全く異なっており、アイロニーでもなくなっている。しかし、Lucy の原始的な方法について「頭がいい」と褒め、その方法がうまく問題を解決したことを肯定的に評価している。原文はユーモアを込めたアイロニーとなっているが、字幕は、「頭がいい」という明示的な賞賛が入り、友好的な対人関係が、原文とは異なる方法で構築されている。置き換えられた理由は明らかではないが、原文のアイロニーは、明確に否定的(あるいは肯定的な)判断・態度を含んでおらず、その点で典型的なアイロニーではないため、直訳では理解されにくいという判断が働いてこのように訳された可能性がある。

(26) Jack: Let’s take a second here and unlock the doors off—

ドアを開けておこなきゃ

Lucy: No-No, I got it, I got it.

Jack: Oh.

Lucy: See? Here we go.

Jack: Oh, this technique. It’s always very, very, very modern technique this way. (46:25)頭がいい // うまく入るぞ “なせば成る”ってやつだ (While You Were Sleeping)

(27) は、職場でミスをした話し手(Bridget)が親友に、部下がそのようなミスをしたらどうするかと尋ねている会話である。親友に “I’d fire you. (私ならあなたを解雇する)” と言われたのに対して、Bridget は “Excellent. (すばらしい)” と返答している。話し手は聞き手の考えや自分の状況を素晴らしいと思っているわけではない。聞き手の考えに納得し、自分の状況は解雇されてもおかしくはないと考え、自虐的に言っている表現であろう。否定的な判断が含まれるが、それが聞き手に向けられるというより、話し手自身に対して向けられており、直訳すると日本語では容易には理解しにくいアイロニーであると思われる。字幕では、「やっぱり」という、聞き手に賛同する、日本語で自然な会話として成り立つ応答表現がアイロニーの代わりに入れられている。これは、納得するように頷く話し手の表情やジェスチャーとも合っている。

(27) Bridget: And, Jude, what would you do if one of your assistants made a harmless little mistake like that?

ジュード あなたの部下がそういうミスをしたら？

Jude: I’d fire you, Bridge.

即クビよ

Bridget: Excellent. (11:05) (納得するような表情で頷きながら)やっぱり (Bridget Jones's Diary)

6.3 独り言のアイロニー

見つけた2つの例のうち、一つは「同アイロニー」として訳され、もう一つは省略されていた。いずれも自らの惨めな状況について述べている。

6.3.1 「同アイロニー」

(28) は、新しい職場での仕事を説明してくれた初対面の上司につれない態度を取られた話し手の独り言である。“I think I made a friend. (友達ができたとする)”と言っているが、本心としては上司の非常に冷たい態度にがっかりしている。離婚して、何ごともうまく行っていない自分への、言葉だけの慰めとも自嘲ともとれるアイロニーである。字幕の「友達ができたと」も、話し手の表情とその前の上司の表情や口調から、アイロニーと解釈される。

(28) Daniel: After you box them...?

箱に詰めたら？

Tony: You ship them. Lots of luck, smart ass. (軽蔑が込もる、冷たい表情と口調で)

発送する // せいぜい頑張りな

Daniel: I think I made a friend. (21:16) (上司 Tony が立ち去った後で、首を少し横に振った後に、淋しそうな表情で少し微笑みながら)

友達ができたと

(Mrs. Doubtfire)

6.3.2 「省略」

(29) の “Excellent. (すばらしい)” は、自らの状況に関する話し手の自嘲的アイロニーである。自身が出演したテレビ番組での自分の不格好な姿を見て、この台詞を言っているのに、本心で言っていないことがわかる。(27) と同様、日本語では理解されにくいアイロニーである。このアイロニーは字幕では省略されているが、後続の発話で話し手の状況が具体的に自嘲的に述べられているので、話し手の感情の描写にも、ストーリーの展開にも影響は小さい。

(29) [自分が不格好な姿をさらしているテレビ番組の録画を見ながら]

Bridget: Excellent. (52:20) Am national laughingstock. Have bottom of the size of Brazil, am daughter of broken home, am rubbish at everything and—

φ これで全国の笑いもの // ブラジル・サイズのお尻 // 両親は別居 私はドジ

(Bridget Jones's Diary)

7. 考察

本節では、英語映画のアイロニーの日本語字幕翻訳の特徴と、翻訳方法の選択に関連する要因について考察する。

7.1 アイロニーの日本語字幕翻訳の特徴

7.1.1 翻訳方法の多様性

5 節で見たように、本稿のデータでは、「同アイロニー」として訳される割合が最も高く、全体の約7割を占めた。「別アイロニー」(4%)も加えると、全体の約4分の3でアイロニーとしての解釈可能性が保持されていた。しかし、Pelsmaekers & Van Besien (2002) と De Meo (2015) の、英語から

オランダ語、イタリア語から英語へのアイロニーの字幕翻訳の研究においてはほとんどの場合にアイロニーとしての解釈の可能性が保持されていたという結果と比べると、本稿のデータにおけるアイロニーとしての解釈可能性が保持される割合はかなり低いと言える。また、「同アイロニー」以外に、「本心の明示」(12%)、「置き換え」(6%)、「省略」(6%)、「別アイロニー」(4%)、「本心の暗示」(1%)といった、アイロニーとしての解釈可能性が保持されなかったり、原文のアイロニーの「話し手の本心」が保持されなかったりする、多様な翻訳方法が見られた。これらの翻訳方法は、先行研究において、アイロニーの翻訳方法として一般的には挙げられていないように思われる。これらの多様な翻訳方法の選択は、英米で作成された英語映画のアイロニーの日本語字幕翻訳の特性と言えるかもしれない。

これには2つの要因が考えられる。まず、言語間のアイロニーの翻訳の容易さ(*translatability of irony*) (Barbe 1995:167)の違いの影響が考えられる。オランダ語とイタリア語は、言語、文化、アイロニーの使用頻度や機能が英語とかなり共通しているのに対し、日本語と英語とでは、言語も文化も、アイロニーの使用頻度や機能も大きく異なるために、原文のアイロニーを同じアイロニーとして翻訳することが、英語から日本語への翻訳の場合にはより難しい可能性がある。もし、今後、日本語、日本文化で、他言語、他文化の影響等により種々のアイロニーが受け入れられるようになり、使用が今よりも一般化すれば、アイロニーとして翻訳される割合が高まるかもしれない。

また、分析対象の特性の影響も考えられる。Pelsmaekers & Van Besien (2002) と De Meo (2015) が分析対象としたのは、いずれもシリーズ化された人気の高いテレビドラマであったため、主要登場人物が固定していた。また、ユーモアのあるアイロニーや憤りを表すアイロニーの多用が主要登場人物の特徴ひいてはドラマの特徴ともなっていた。したがって、視聴者も登場人物のアイロニーの使用を期待する。そのため、翻訳者も、アイロニーとしての解釈の可能性の保持を重視するのではないと思われる。一方、本稿で分析の対象とした映画は、基本的に普通の日常会話で成り立ち、登場人物も、登場人物の人間関係も状況も多様であった。攻撃的なアイロニーや友好的なアイロニーが比較的高い頻度で使用される人間関係も一部にはあったが、限定的であった。このような事情により、各々の映画を観る視聴者がアイロニーの使用をあらかじめ期待することが少ないため、原文でアイロニーが使われていても、日本の視聴者が登場人物の人間関係や状況を理解しやすいようにすることが重視され、多様な翻訳方法が柔軟に選択されていたという可能性が考えられる。アイロニーの多用が特徴となっているようなテレビドラマや映画においては、視聴者にアイロニーの使用への期待が生じるので、日本語字幕翻訳においても、アイロニーがアイロニーの解釈の可能性を保持するように訳される割合が今回の結果よりも高くなるかもしれない。

7.1.2 対人関係機能の保持

攻撃的なアイロニーと友好的なアイロニーのどちらにおいても、原文のアイロニーの対人関係機能が字幕において保持されていた。攻撃的なアイロニーにおいては、「同アイロニー」と、「本心の明示」、「本心の暗示」において、話し手の本心(対象に関する否定的な評価・態度)の理解を可能にすることと、言語的・非言語的コンテキストの助けにより、攻撃的な対人関係機能が保持されていた。「別アイロニー」では、原文アイロニーで表される話し手の本心とは異なる内容の否定的評価を含むアイロニーにより、攻撃的な対人関係機能の保持が実現されていた。「省略」の場合も、言語・非言語的コンテキストによって、攻撃的な対人関係が保持されていた。

一方、友好的なアイロニーにおいては、「同アイロニー」では、肯定的評価を表す表現の使用や、言語・非言語的コンテキストの助けにより、友好的な対人関係機能が保持され、「置き換え」では、

友好的な対人関係機能を保持するのに相応しい表現が用いられることにより保持されていた。「本心の明示」では、笑いながら台詞が言われることや、そもそも、原文が否定的評価を含まないアイロニーであるために、友好的な対人関係機能が保持されていた。

以上より、日常的な会話を主体とする映画の台詞のアイロニーの字幕翻訳においては、原文のアイロニーの対人関係機能の保持が重要視され、アイロニーとしての解釈可能性や話し手の本心の伝達より優先されることがあることがわかった。アイロニーの対人関係機能の保持は、字幕翻訳において求められる、原文と同等の発語媒介効力(受け手に与える効果)の保持に貢献すると考えられる(Gottlieb 1998 in Perez Gonzalez 2009, Blum-Kulka 1981 in Baker & Saldanha (Eds.) 2009)。

各翻訳方法の特徴をまとめたものが、表 2 である。(ただし、独り言のアイロニーは、もともと対人関係機能を伴わないため、対人関係機能の保持の判断の対象外である。)

表 2 アイロニーの翻訳方法とその特徴

	原文のアイロニーの「話し手の本心」の理解可能性の保持	アイロニーとしての解釈の可能性の保持	原文のアイロニーの対人関係機能の保持
a 「同アイロニー」	○	○	○
b 「別アイロニー」	×	○	○
c 「本心の明示」	○	×	○
d 「本心の暗示」	○	×	○
e 「置き換え」	×	×	○
f 「省略」	×	×	(○)

○は保持されることを、×は保持されないことを示す。(○)は、表現は省略されるが、言語・非言語のコンテキストにより、原文と同じ対人関係が保持されることを示す。

7.2 翻訳方法の選択

個々のアイロニーの翻訳方法の選択に関わる要因としては、対人関係機能の保持という原則に加えて、アイロニーの解釈の難易度と、翻訳の必要度が関連していると思われた。解釈の難易度については、原文アイロニーを忠実に訳した場合に、1) 言語的・非言語的コンテキスト(前後の台詞や状況、ストーリーの展開、口調・表情等)を踏まえて、アイロニーとして解釈できるか、2) 話し手の本心が理解できるか、3) 文字数過多、視聴者の処理労力過多とならないか(特に、早口の台詞の場合)が関係していると思われた。翻訳の必要度に関しては、1) アイロニーの対人関係機能や話し手の本心が、他の台詞や状況、ストーリーの展開から理解されるか、2) 話し手の本心の伝達がストーリーの展開上重要であるかが考慮されているように思われた。「別アイロニー」への「改変」や、「本心の『明示』」、「置き換え」や「省略」はアイロニー以外の字幕翻訳においても用いられる方略であり、その使用に関連する要因も、アイロニー以外の翻訳の場合と共通していると言えよう。このように考えると、字幕翻訳において、アイロニーは特別なものではないと言える。

具体的な翻訳方法の選択としては、原文のアイロニーを(ほぼ)忠実に訳した場合に、解釈に問題が生じなければ「同アイロニー」が選択されるが、解釈が何らかの理由で難しい場合には他の翻訳方法が選択されているようであった。以下、各翻訳方法の特徴と、その選択に関連すると思われ

る要因をまとめる。

(a)「同アイロニー」

日本語の皮肉にはほぼ対応する攻撃的なアイロニーだけでなく、日本語では使用される頻度がかなり低いと思われる友好的なアイロニーの字幕翻訳においても、最も多かったのは「同アイロニー」であった。「同アイロニー」において、それがアイロニーであることおよび話し手の本心は、前後の台詞や状況、話し手の口調・表情、ストーリーの展開等から容易に理解できるようになっていた。また、「同アイロニー」として訳されることによって、それぞれの対人関係機能(攻撃的なアイロニーでは攻撃的な機能が、友好的なアイロニーでは友好的な機能)が保持されていた。これらが、「同アイロニー」として翻訳される条件と考えられる。

「同アイロニー」という翻訳方法は、原文に忠実な翻訳が求められる近年の傾向にも合致している。日本語のようにアイロニーへの親和性が高くない文化においても、言語・非言語コンテキストの中で理解が可能でさえあれば、英語文化の一部として視聴者に受容され得る(さらには、視聴者の異文化の体験を可能にする(Berman 1992 in Barbe 1995:167))のではないかとと思われる。

(b)「別アイロニー」

攻撃的なアイロニーにおいて選択されていた。原文のアイロニーにおいて聞き手が非難の直接の対象となっていないが字幕では聞き手が非難の直接の対象になっている場合と、おそらく文化的な事情により、ターゲットが聞き手から話し手に変更されていた場合であった。前者では、聞き手が非難の直接の対象となることにより、攻撃性が増す傾向が見られた。

(c)「本心の明示」

攻撃的なアイロニーと友好的なアイロニーの両方に見られたが、攻撃的なアイロニーにおいてより多く選択されていた。攻撃的なアイロニーにおいては、本心の明示自体が、攻撃的な機能を持ち得るためと考えられる。選択されるのは、1)原文のアイロニーが曖昧な解釈が可能なタイプのアイロニーである場合(原文のアイロニーの表現の文字通りの意味が、ある側面あるいは別の視点からはターゲットにあてはまり得るため、アイロニーとして訳されると、それが話し手の本心と解釈されて、その裏に込められた話し手の本心が伝わらない可能性がある場合)、2)原文のアイロニーが日本語ではあまり見られないタイプのアイロニーであるため、アイロニーとして訳されると視聴者が理解しにくいと思われる場合、3)アイロニーとして忠実に訳されると、長く複雑になるなどの理由により、理解しにくくなる場合、4)前後の台詞からも、非言語的特徴からも、話し手の本心が推測しにくい場合、アイロニーとして訳されると、それが話し手の本心を表すと誤解される可能性がある場合であった。

(d)「本心の暗示」

攻撃的なアイロニーに見られた。原文のアイロニーが忠実に訳されると理解しにくいと思われる場合に、本心を暗示し、かつ攻撃的な対人関係機能が保持できる表現が選択されていた。

(e)「置き換え」

友好的なアイロニーの翻訳に特徴的に見られた翻訳方法である。主に原文のアイロニーが日本語ではアイロニーと理解しにくいタイプのアイロニーである場合に、アイロニーが用いられている状

況下で、日本語で友好的に自然に用いられるような表現が使われていた。

(f)「省略」

原文のアイロニーが省略される場合には、対人関係の機能に関係なく、1) 原文のアイロニーを忠実に訳した場合に理解しにくい、かつ、2) 翻訳の必要性が低い、という要因が共通に観察された。1)に関しては、以下が含まれた。① 原文アイロニーが早口な台詞の一部である、あるいは原文アイロニー自体が早口なので、台詞をすべて訳して字幕に盛り込むと情報量および文字数過多となる。② 原文のアイロニーが日本語であまり見られないタイプのアイロニーである。③ 忠実に訳すと、アイロニーではなく、話し手の本心を表すと誤解される可能性がある。

2)の翻訳の必要性に関しては、以下の場合が含まれた。① 前後の発話や話し手の口調や表情、またはストーリーの展開から、原文アイロニーにおける話し手の本心およびアイロニーにより示される対人関係が伝わる。かつ、アイロニーを省略しても、聞き手との会話の整合性がとれる。② 前後の発話や話し手の口調や表情、またはストーリーの展開から、アイロニーにより示される対人関係が伝わり、かつ、原文アイロニーにおける話し手の本心がストーリーの展開上、重要ではない。かつ、省略しても、聞き手との会話の整合性が保たれる。

7.3 「同アイロニー」以外の翻訳方法が選択され易いタイプのアイロニー

「同アイロニー」以外の翻訳方法が選択され易いタイプのアイロニーとして、以下が挙げられる。

1) 曖昧な解釈が可能なアイロニー (例:(7), (23) →「本心の明示」)

2) 日本語であまり見られないタイプのアイロニー

a) 話し手をターゲットとする自虐的なアイロニー (例:(27), (29) →「置き換え」、「省略」)

b) 否定的・肯定的評価のどちらも含まれないと思われるアイロニー (例:(24), (26) →「本心の明示」、「置き換え」)

c) 話し手が実際には聞き手にして欲しくないことや、時機を逸したことなどをするように聞き手に指示するアイロニー (例:(8), (25) →「本心の明示」、「置き換え」)

1)は、文字通りに解釈される可能性がある。日本語でも見られるアイロニーである。2)は、日本語ではあまり見られないタイプのアイロニーであるため、忠実に訳されると、視聴者が理解しにくかったり、違和感を抱いたりする可能性がある。2b)と2c)は、英語においてもあまり見られないが、英語では、日本語よりも、多様なアイロニーが使用され、アイロニーとして認知され易いように思われる。

8. まとめ

本稿では、英語映画のアイロニーが日本語字幕においてどのように翻訳されているかを考察した。原文のアイロニーを、対人関係機能別に、「攻撃的なアイロニー」、「友好的なアイロニー」、「独り言のアイロニー」に分類し、それぞれにおいて、どのような翻訳方法がどのような場合に用いられるか、また、「攻撃的なアイロニー」と「友好的なアイロニー」に関しては、対人関係機能は保持されているかを考察した。攻撃的なアイロニーと友好的なアイロニー共に、(ほぼ)忠実に「同アイロニー」として訳される割合が最も高く、全体の約7割を占めたが、残りの約3割では別の翻訳方法が選択されていた。攻撃的なアイロニーでは、「本心の明示」、「省略」、「別アイロニー」、「本心の暗示」が見られ、友好的なアイロニーでは、「置き換え」と「本心の明示」が見られた。攻撃的なアイロニーと友好的なアイロニーでは翻訳方法に多少の違いが見られたものの、どちらにおいても、翻訳方法に関わらず、原文のアイロニーが持つ対人関係機能が字幕において保持されていた。これ

らの結果から、日常的な会話を主体とする映画の台詞のアイロニーの日本語字幕翻訳においては、原文のアイロニーの対人関係機能の保持が重要視され、アイロニーとしての解釈可能性や話し手の本心の伝達より優先される場合がかなりあることがわかった。

今後の課題として以下の点が挙げられる。まず、字幕とは異なる制約がある吹替ではアイロニーはどのように訳されるであろうか。字幕翻訳においては、早口の台詞においてアイロニーが省略されたり、他の方法で訳されたりすることが多かったが、吹替翻訳では早口で話すことが可能であるので、省略されず、アイロニーとして訳される割合が高い可能性がある。また、コメディ等、アイロニーの使用が重要な機能を担うジャンルの作品の字幕および吹替翻訳においては、アイロニーはどのように訳されているであろうか。これらにおいては、アイロニーの解釈の可能性がより高い割合で保持されている可能性がある。今回の研究では、日英語のアイロニーの違いが翻訳方法に影響することが示唆されたが、データが十分ではなく、詳しく考察することはできなかった。これらの点を今後の課題としたい。

.....

【著者紹介】

牛江ゆき子 (USHIE Yukiko) 文京学院大学外国語学部教授。専門は英語学(語用論)。主な論文に「日本語映画の英語字幕に見られるポライトネス」(西尾道子と共著)『通訳翻訳研究』第9号(2009)などがある。連絡先: ushie@bgu.ac.jp

.....

【注】

1. 筆者の大学の語用論の授業でアイロニーを扱うと、受講生は日本語の皮肉とは異なる働きをする英語のアイロニーに驚き、関心を示す。また、皮肉とは異なるアイロニーについて、日本語にはないが、洋画で接するのでなじみがあると言う学生が多い。

【分析資料】

『アメリカン・プレジデント』(*The American President*, 1995) [DVD] ロブ・ライナー監督 United States: Columbia Pictures 発売元: ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

『あなたが寝てる間に・・・』(*While You Were Sleeping*, 1995) [DVD] ジョン・タートルトープ監督 United States: Buena Vista Pictures 発売元: ウォルト ディズニー スタジオ ホーム エンターテイメント

『アポロ13』(*Apollo 13*, 1995) [DVD] ロン・ハワード監督 United States: Universal Pictures 発売元: ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン

『ビューティフル・マインド』(*A Beautiful Mind*, 2001) [DVD] ロン・ハワード監督 United States: Universal Pictures 発売元: パラマウント・ジャパン株式会社

『ブリジット・ジョーンズの日記』(*Bridget Jones's Diary*, 2001) [DVD] シャロン・マグワイア監督 United States: Miramax Films 発売元: ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

『デーヴ』(*Dave*, 1993) [DVD] アイバン・ライトマン監督 United States: Warner Bros. Pictures 発売元: ワーナー・ホーム・ビデオ

『エリン・ブロコビッチ』(*Erin Brockovich*, 2000) [DVD] スティーブン・ソダーバーグ監督 United States: Universal Pictures 発売元: ソニー・ピクチャーズ エンターテインメント

- 『恋はデジャブ』 (*Groundhog Day*, 1993) [DVD] ハロルド・ライミス監督 United States: Columbia Pictures 発売元: ソニー・ピクチャーズ エンターテインメント
- 『ミーン・ガールズ』 (*Mean Girls*, 2004) [DVD] マーク・ウォータース監督 United States: Paramount Pictures 発売元: パラマウント ジャパン株式会社
- 『ミセス・ダウト』 (*Mrs. Doubtfire*, 1993) [DVD] クリス・コロンバス監督 United States: 20th Century Fox 発売元: 20 世紀フォックス・ホーム・エンターテインメント・ジャパン株式会社
- 『ムーンライズ・キングダム』 (*Moonrise Kingdom*, 2012) [DVD] ウェス・アンダーソン監督 United States: Focus Features 発売元: 株式会社ハピネット
- 『ノッティングヒルの恋人』 (*Notting Hill*, 1999) [DVD] ロジャー・ミッチェル監督 United States: Universal Pictures 発売元: ポニーキャニオン
- 『プラダを着た悪魔』 (*The Devil Wears Prada*, 2006) [DVD] デイヴィッド・フランケル監督 United States: 20th Century Fox 発売元: 20 世紀フォックス・ホーム・エンターテインメント・ジャパン
- 『ロスト・イン・トランスレーション』 (*Lost in Translation*, 2003) [DVD] ソフィア・ Coppola 監督 United States: Focus Features 発売元: 株式会社アーティストフィルム
- 『最高の人生のはじめ方』 (*The Magic of Belle Isle*, 2012) [DVD] ロブ・ライナー監督 United States: Magnolia Pictures 発売元: AMG エンタテインメント
- 『最高の人生の見つけ方』 (*The Bucket List*, 2007) [DVD] ロブ・ライナー監督 United States: Warner Bros. Pictures 発売元: ワーナー・ホーム・ビデオ
- 『ユー・ガット・メール』 (*You've Got Mail*, 1998) [DVD] ノーラ・エフロン監督 United States: Warner Bros. Pictures 発売元: ワーナー・ホーム・ビデオ
- 『ユー・キャン・カウント・オン・ミー』 (*You Can Count On Me*, 2000) [DVD] ケネス・ロナーガン監督 United States: TSG Pictures 発売元: パラマウント ジャパン株式会社

【参考文献】

- Ajtony, Z. (2014). Translation of irony in the Hungarian subtitles of *Downton Abbey*. *Acta Universitatis Sapientiae, Philologica*, 6 (2), 197-210. [Online]
<https://www.degruyter.com/downloadpdf/j/ausp.2015.6.issue-2/ausp-2015-0014/ausp-2015-0014.pdf> (Aug.16, 2015)
- Anolli, L., Ciceri, R. & Giaele Infantino, M. (2007). From “blame by praise” to “praise by blame”: analysis of vocal patterns in ironic communication. In R. Gibbs & H. L. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader*. (pp. 361-379). New York: Erlbaum. (Reprinted from *International Journal of Psychology*, 37, pp. 266-276. by the International Union of Psychological Science, 2002)
- Attardo, S. (2001). Irony as relevant inappropriateness. *Journal of Pragmatics*, 32, 793-826.
- Barbe, K. (1995). *Irony in context*. Amsterdam: John Benjamins.
- Clark, H. H. & Gerrig, R. J. (2007). On the pretense theory of irony. In R. Gibbs & H. L. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader* (pp. 25-33). New York: Lawrence Erlbaum Associates. (Reprinted from *Journal of Experimental Psychology: General* 113, pp. 121-126, by American Psychological Association. 1984.)
- Colston, H. L. (2007). Salting a wound or sugaring a pill: the pragmatic functions of ironic criticism. In R. Gibbs & H. L. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader* (pp.

- 319-338). New York: Lawrence Erlbaum Associates. (Reprinted from *Discourse Processes*, 23, pp. 24-53, by New York: Lawrence Erlbaum Associates. 1997.)
- de Linde, Z & Kay, N. (1999). *The semiotics of subtitling*. Manchester, UK: St. Jerome Publishing.
- De Meo, M. (2015). The language of *Inspector Montalbano*: a case of irony translation. In E. Perego & S. Bruti (Eds.) *Subtitling today: shapes and their meanings*. (pp. 57-75). Newcastle upon Tyne, UK: Cambridge Scholars Publishing.
- Dews, S., Kaplan, J., & Winner, E. (2007). Why not say it directly? The social functions of irony. In R. Gibbs & H. L. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader* (pp. 297-317). New York: Lawrence Erlbaum Associates. (Reprinted from *Discourse Processes*, 19, pp. 347-367, by New York: Lawrence Erlbaum Associates. 1995.)
- Diaz Cintas, J. & Remael, A. (2007). *Audiovisual translation: subtitling*. Manchester, UK: St. Jerome Publishing.
- Georgakopoulou, P. (2009). Subtitling for the DVD industry. In J. Diaz Cintas and G. Anderman (Eds.), *Audiovisual translation: language transfer on screen*. (pp. 21-35). Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan.
- Gibbs, R. (2007). Irony in talk among friends. In R. Gibbs & H. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader* (pp. 339-360). New York: Erlbaum. (Reprinted from *Metaphor & Symbol* 15, pp. 5-27, by Lawrence Erlbaum Associates. 2000.)
- Gibbs, R., Bryant, G. A. & Colston, H. L. (2014). Where is the humor in verbal irony? *Humor*, 27(4): 575-595. [Online] http://www.gregbryant.org/humor_in_verbal_irony_2014.pdf (Aug. 17, 2016)
- Gottlieb, H. (2009). Subtitling against the current: Danish concepts, English minds. In J. Diaz Cintas (Ed.), *New trends in audiovisual translation* (pp. 21-43). Bristol, UK: Multilingual Matters.
- Grice, H. P. (1975). Logic and conversation. In P. Cole & J. L. Morgan (Eds.), *Syntax and semantics: Vol. 3 Speech acts* (pp. 41-58). New York: Academic Press.
- Haapakoski, S. (2010). Translating children's literature: additions as an aid to understanding irony. In K. Lievois & P. Schoentjes (Eds.) *Translating Irony. Linguistica Aterpiensia New Series—Themes in Translation Studies, 9/2010* (pp. 135-150). Antwerp: Department of translators & interpreters, Artesis University College.
- Hatim, B. & Mason, I. (1990). *Discourse and the translator*. London: Longman.
- Hatim, B. & Mason, I. (1997). *The translator as communicator*. London: Routledge.
- Hutcheon, L. (1994). *Irony's edge: the theory and politics of irony*. London & New York: Routledge.
- Kotthoff, H. (2003) Responding to irony in different contexts: on cognition in conversation. *Journal of Pragmatics*, 35, 1387-1411.
- Kumon-Nakamura, S., Glucksberg, S., & Brown, M. (2007). How about another piece of pie: the allusional pretense theory of discourse irony. In R. Gibbs & H. L. Colston (Eds.), *Irony in language and thought: a cognitive science reader* (pp. 57-95). New York: Lawrence Erlbaum Associates. (Reprinted from *Journal of Experimental Psychology: General* 124, pp. 3-21, by American Psychological Association. 1995.)
- Linder, D. (2010). Translating irony in popular fiction: Dashiell Hammett's *The Maltese Falcon*. In K. Lievois & P. Schoentjes (Eds.), *Translating Irony. Linguistica Aterpiensia New Series—Themes in Translation Studies, 9/2010* (pp. 119-134). Antwerp: Department of translators & interpreters, Artesis

University College.

- Mateo, M. (1995). The translation of irony. *Meta*, 40 (1), 171-178. [Online]
<https://www.erudit.org/en/journals/meta/1995-v40-n1-meta184/003595ar.pdf> (Aug. 18, 2015).
- Nash, W. (1985). *The language of humour*. London & New York: Routledge.
- Pedersen, J. (2015). On the subtitling of visualized metaphors. *The Journal of Specialised Translation*, 23 (January), 162-180. [Online]
<http://www.diva-portal.org/smash/get/diva2:787779/FULLTEXT01.pdf> (Aug. 18, 2015).
- Pelsmaekers, K. & Van Besien, F. (2002). Subtitling irony: *Blackadder* in Dutch. In J. Vandaele (Ed.) *Translating Humour. The Translator*, 8 (2), 241-266.
- Perez Gonzalez, L. (2009). Audiovisual translation. In M. Baker and G. Saldanha (Eds.) *Routledge encyclopedia of translation studies, 2nd edition* (pp. 13-20). London & New York: Routledge.
- Perez-Gonzalez, L. (2014). *Audiovisual translation: theories, methods and issues*. London & New York: Routledge.
- Sperber, D. & Wilson, D. (1981). Irony and the use-mention distinction. In P. Cole (Ed.), *Radical pragmatics* (pp. 295-318). New York: Academic Press.
- Sperber, D. & Wilson, D. (1986). *Relevance: communication and cognition*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Utsumi, A. (2000). Verbal irony as implicit display of ironic environment: distinguishing ironic utterances from nonirony. *Journal of Pragmatics*, 32, 1777-1806.
- Vandaele, J. (2002). (Re-)constructing humour: meanings and means. *The Translator* 8 (2), 149-172.
- Wilson, D. & Sperber, D. (1992). On verbal irony. *Lingua*, 87, 53-76.
- Wilson, D. (2014). Irony, hyperbole, jokes and banter. [Online]
http://www.academia.edu/17031002/Irony_hyperbole_jokes_and_banter (Aug. 18, 2016).
- Winner, E. (1988). *The point of words: children's understanding of metaphor and irony*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- 河上誓作 (1998) 「アイロニーの言語学」『待兼山論叢 文学篇』 32:1-16. 大阪大学
- 河上誓作 (2012) 「アイロニーの認知モデル」『英文学研究 支部統合号』 Vol. 4: 349-356. 日本英文学会
- 松井智子 (2013) 『子どものうそ、大人の皮肉』 岩波書店
- 牛江ゆき子・西尾道子 (2002) 「英語の映画におけるせりふと日本語の字幕の比較: 文の要素の省略について」『お茶の水女子大学人文科学紀要』 第55巻: 111-130.
- 牛江ゆき子・西尾道子 (2003) 「英語映画の日本語字幕における置き換え—虚と実のつながり」『お茶の水女子大学人文科学紀要』 第56巻: 115-132.
- 牛江ゆき子・西尾道子 (2008) 「映画の字幕表現における具体性に関する一考察」『翻訳研究への招待』 第2号: 75-91. 日本通訳翻訳学会 [Online]
http://honyakukenkyu.sakura.ne.jp/shotai_vol2/05_vol2_Ushie_Nishio.pdf (2016年8月15日)
- 牛江ゆき子・西尾道子 (2011) 「映画字幕に見られる『短い応答』の訳の特徴」『翻訳研究への招待』 第5号: 25-51. 日本通訳翻訳学会 [Online]
http://honyakukenkyu.sakura.ne.jp/shotai_vol5/02_vol5-Ushie_Nishio.pdf (2016年8月15日)